

文化發展の擴大化

論集増刊の聲高し
出版部設置も漸く叫ばる

全學擧げての要望へ

本學創立五十周年に當り去る五月二日は盛大な祝典が行なはれた。それは「新學」の創立と本邦大學の最高水準に付せしむる「新學」の本質を宣傳され、體現なる本學の活力と相俟つて着想構成の一歩を歩みよるが、最も特徴的で生動的であるのは、新學の本質を確立しておられた「新學」の發行である。それは二年前來切めて世間に亘つた「新學」の研究論集である。それが二年間の研究論集であつて、その内容は、本學の英語の授業にして何ら異色ある専門的價値のあるものでなく、從つて市場への賣出成績も不良で執筆者の努力の眞價も認められず執筆機會も二年に一回ぐらひめぐり来る有様で何のための「研究論集」かその二に疑うべきであらう。

新銳、中堅を迎へて

存在性が疑はれるに至り特に教授、先輩哲に分立した最も良心的な專門雑誌が勤めを續けてゐるものは純然たる「新學」の發行である。それは二年前來切めて世間に亘つた「新學」の研究論集である。それが二年間の研究論集であつて、その内容は、本學の英語の授業にして何ら異色ある専門的價値のあるものでなく、從つて市場への賣出成績も不良で執筆者の努力の眞價も認められず執筆機會も二年に一回ぐらひめぐり来る有様で何のための「研究論集」かその二に疑うべきであらう。

面目一新の十一年度新工作

新補充

希望者

